

所報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第179号 令和5年12月15日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

（主な内容）

- ・ 小学校、中学校外国語教育授業参観の実施報告
- ・ 江別市初任研修の実施報告

小学校、中学校外国語教育授業参観実施報告

11月17日（金）に大麻泉小学校、12月8日（金）に大麻東中学校で、今年度の英語・外国語参観授業が実施されました。この取組は、各小学校の外国語教育指導協議会の担当者に参加して頂き、紹介して頂いた実践を参考に、市内外国語教育の充実につなげていくことを目的に進められてきました。

小学校の授業は、担任の吉田教諭とALT（外国語助手）のカート・畑中氏が協力し、I can ~（私は、～できる）、I can't ~（私は、～できない）の表現を用いて、自分ができるとできないことを紹介できるようにする学習を見せて頂きました。

学習展開は、会話に必要な単語の紹介を、発音を中心にALT（外国語助手）が、視覚（イラストによる可視化）や反復練習で紹介し、HT（ホームルーム担任）が、基本となる文型に単語を当てはめさせながら会話文を作らせていく形で、学習が進められていました。



課題の解決に向け交流し合う児童の様子(大麻泉小)

基本の文型を定着させる工夫では、イラストと音楽を組み合わせた自作のオリジナル教材を使い、子ども達が歌を歌い踊りながら楽しそうに基本型を覚えていく様子も見られました。また、定着、応用を目的に位置づけられた交流では、ゲーム形式でお互いにできること、できないことを紹介させ合うなど、意図的に反復学習がみ込まれるなど、アクティビティーに富んだ体験型の授業が進められていました。大麻泉小の授業では、授業全般を通して、明るく、笑顔で、生き生きと取り組む子どもたちの姿を見ることができました。

中学校の授業では、授業担当の平井教諭とALT（外国語助手）のマシュー・ジョンソン氏が協力した特別支援学級での「Can you ~ ? : あなたは、～できますか？」の授業を見せて頂きました。学年差や障がい別の学力差が大きく、指導が非常に難しい授業になるため、どんな支援が進められていくのか参観者からも高い関心が寄せられる授業となりました。

展開的には、課題の確認後、基本的な文型と表現に必要な単語の発音・読みの確認。課題解決に向けた手立てとして、生徒同士が教え合えるペア学習を取り入れた実践（学力差の解消：低位層→マンツーマンによる集中支援、上位層→教える体験的支援による定着）。学習内容を定着させるた

めの振り返りによる確認と、授業展開のお手本となるような構成で授業は進められていきました。また、授業ではHT（ホームルーム担任）とALT（外国語助手）の2人以外にも3名の学級担任と一緒に授業に参加し、活動に対して生徒の意欲や自信を引き出す適切な評価が見られるなど、難しいといわれる特別支援学級の支援の在り方を示していただける授業となっていました。



ペア学習で課題解決に取り組む様子（大麻東中）

んな目的を持ち」、「どんな支援方法でALT（外国語助手）を活用するか」、連携を図りながら進めていくことがポイントになってきますが、今回の交流授業は手本となる実践紹介となりました。

2つの交流授業で意識されていたのは、単元の中で身に付けさせたい能力を、明確に示すことと（学習課題）、定着させるための必要なアクティビティー（体験的学習）を意識していることでした。そして、児童生徒に見通しを持たせるために、基本的な授業スタイルを「課題提示」から、「解決のための手立て」、「まとめでの定着」と意識的に授業展開を確立させていることでした。

市内に配置されているALT（外国語助手）を、より効果的に活用していくためには、授業内での担任との役割分担が明確化されることが大切になってきます。「どの段階で」、「ど

江別市初任研修の実施について

10月23日（月）に江別市が独自に主催する初任研修（R元、2、3年度 江別市新採用教職員対象25名）が実施されました。今回の企画は5月に実施された初任研修の第2期研修で、第1期研修と同様に、同期の教職員が交流を持ち、連携を深める関係性を築いていくことを目的に実施されました。

研修では、講師の江別市教育委員会指導主事：大西二生氏から、「個人思考からグループ協議で考えを深め合っていく」→今、学校で求められる授業の在り方を意識した3部構成の講義が進められていきました。第一部では「教師は5者（①学者、②医者、③役者、④易者、⑤芸者）」と言われる理由について、グループでまとめたものを発表後、6つ目の「〇者」を考えるとしたらどんな「〇者」を考えていくか、について交流を深めていきました。第二部では、学校に携わる「学」が含まれるフレーズについて考える取り組みが持たれましたが、回答では型にハマらない若い先生ならではの自由な発想が見られる交流となりました。また、第三部は、レゴブロックを組み立てる体験型講座となりました。受講者は組み立てに苦戦していましたが、完成させるためには、設計図が必要であり、授業においても教えのベースとなる設計図を作って支援にあたる大切さが伝えられる講座となりました。

研修会の最後に、自分のやってきたことをどう振り返るかが大切で、上手くできなかったことに対する評価を残念に思うのか、失敗は多くてもできることはやったと考えるか、すべて自分自身が決めることであり、子ども達と触れ合うことが多い先生方には、「大変な事が多いけど、後者であってほしい。」とまとめられた研修会となりました。



第三講座でブロックを組み立てる受講者の様子